

6. 18大阪北部地震

少なすぎる被災者支援枠

住宅改修など 復旧支援のあり方を問う

6月の大阪北部地震で八幡市は震度5強となり、京都府下最大の被害でした。住宅の罹災証明は約2000軒に達しています。

地震後の大雨や台風により、被災した家屋への影響は大きく、震災後の回収が急がれます。

なぜ「先着順」？

7月に八幡市は、7900万円の緊急補正を組み、罹災住宅の復旧のため住宅耐震化、修繕の支援を強化しました。しかし、「先着順」の募集となったために、申し込み開始日には申し込み者が深夜0時から市役所前に並んだり、適用枠が少ないため、定員超過で申請できなかった事例が相次ぎ、市民の方から苦情が出ています。

すでに「締め切り」事業も

申請状況を見ると、木造耐震改修助成のうち、耐震性を高める本格型はすでに定数を超過しており、申請を受け付けていません。「簡易版」の場合は、まだ定数に達していないものの、申し込み枠に迫

深夜から行列並び、定員を超えて受けられず

八幡市の住宅改修助成事業

(7/31現在)

- ◇耐震診断 70件にたいし32件
- ◇木造住宅耐震改修助成（本格）
 - ・助成額 最高100万円
 - 15戸にたいし15戸
- ◇木造住宅耐震改修助成（簡易版）
 - ・助成額 最高40万円(耐震診断必要)
 - 追加募集40戸にたいし5戸
 - ・助成額 最高30万円(耐震診断不要)
 - 追加募集70戸にたいし53戸

る状況になっています。

災害支援において、被災住宅の復旧、改修のための助成に募集枠などを設けて制限することはふさわしくありません。行政は、改修希望者にたいし、できるだけ支援の道を広げるべきです。

日本共産党は、市にたいし、市の決断で、住宅改修を願う人たちがきちんと助成を受けられるよう改善を求めました。また京都府、国の助成制度のあり方の検討を求めています。

日本共産党は、全国各地で西日本集中豪雨、大阪北部地震の被災者への支援募金にとりくんでいます。

日本共産党京都府委員会、山城地区委員会は7月31日、地震で被害を受けた八幡市に救援募金30万円を届けました。

八幡市の森下徹副市長が対応しました。席上、義援金を手渡すとともに、災害復旧についての国や京都府への要望をお聞きしました。

森下よしみ府会議員、山本くにお八幡市議団長が同席しました。

八幡市に
共産党が
義援金届ける

各地で募金に協力